

一 ワシントン海軍軍備制限条約批准ノ件審査報告

海軍軍備制限ニ関スル条約御批准ノ件審査報告

今回本院ニ御諮詢アラセラレ本官等審査委員ニ付託セラレタル条約御批准ノ諸件ノ中海軍軍備制限ニ関スル条約御批准ノ件ニ付テハ玆ニ審査ヲ了シテ其ノ結果ヲ報告スルノ時期ニ達シタリ

抑々客年十一月米國政府カ諸國ヲ招請シテ華盛頓ニ開催シタル列國會議ハ当初ヨリ各國海軍勢力制限ノ問題ヲ審議セムコトヲ標榜セシカ其ノ開會ノ劈頭ニ於テ米國全權委員ヨリ本問題ニ関シ提案スル所アリ其ノ要旨ハ(一)各國主力艦建造計畫ハ起工後ノモノナルト否トヲ問ハス総テ之ヲ拋棄スヘキコト(二)各國老艦數隻ヲ廢棄スヘキコト(三)大体ニ於テ各國現在ノ海軍勢力ヲ標準トシテ將來ニ對スル其ノ海軍勢力ヲ決定スヘキコト(四)各國主力艦ノ噸數ヲ標準トシテ其ノ補助艦ノ勢力ヲ決定スヘキコトノ四綱領ヲ以テ基礎ト為シ先ツ現ニ製艦競争ヲ行ヒツツアル日、英、米三國ノ海軍勢力ニ付具體的制限案ヲ提示スルニ在リ該制限案中主力艦ニ関スル部分ノ大要ヲ挙クレハ帝國ハ未起工ノモノ八隻ノ建造計畫ヲ拋棄スルノ外十七隻約四十五萬噸(陸奧ヲ含ム)ヲ、英國ハ二十三隻約五十八萬噸ヲ、米國ハ三十隻約八十五萬噸ヲ廢棄シ其ノ結果帝國ハ十隻約三十萬噸ヲ、英國ハ二十二隻約六十萬噸ヲ、米國ハ十八隻約五十萬噸ヲ保有スヘク而シテ今後十年間ハ原則トシテ此ノ狀態ヲ其ノ儘継続シ十年後ニ至リテ始メテ艦齡二十年ヲ越エタルモノニ限り之カ代艦ヲ建造スルコトヲ得セシメ代艦建造ノ結果日、英、米三國ノ海軍勢力ヲ各三十萬噸、五十萬噸、五十萬噸トシ即六、十、十ノ比率ニ從ハシメムトスルモノナリ此ノ米國提案ニ對シ帝國全權委員ハ其ノ大体ノ趣旨ニ異議ナキモ海軍勢力ノ比率ニ関シテハ國家安全ノ見地ニ於テ特ニ考慮スヘキモノアリ即チ英、米二國ノ十二對シ帝國ハ七ノ比率ヲ保有スルコト必要ナリ又陸奧ハ既ニ竣工セルモノナルカ故ニ之ヲ保留スルコト当然ナリト為シ具ニ商議ヲ重ネタルニ終ニ我方ノ主張ニ付贊同ヲ得ルニ至ラス結局日本側ハ前記米國提案ニ係ル六、十、十ノ主力艦比率ヲ承認スルト共ニ英米側ヲシテ陸奧ノ保留ニ同意セシメ且日、英、米三國間ニ太平洋諸島防備ニ関シ三國ノ協議調ヒタルニ由リ進テ仏、伊二國ヲ加ヘテ其ノ主力艦ノ制限ヲ審議シ終ニ之ヲシテ米國提案ヲ承認セシメ更ニ五國間ニ航空母艦ノ制限ヲ協定シタルモ補助艦ノ制限ニ至リテハ英仏二國間ノ意見ノ相違ニ因リ僅ニ其

ノ単艦噸数及搭載砲口径ノ制限ヲ約定シタル外何等協調ノ成立ヲ見スシテ止ミ以上ノ諸点ヲ骨子トシテ本条約ヲ編整シ本年二月六日ヲ以テ日、英（五海外殖民地ヲ含ム）米、仏、伊ノ五国全権委員ノ間ニ之カ署名調印ヲ了シタリ
本条約ノ梗概ヲ剖示スレハ大要左ニ条陳スル所ノ如シ

(一)冒頭ニ於テ締約国ハ本条約ノ規定ニ從ヒ各自国ノ海軍軍備ヲ制限スヘキコトヲ約定シタル旨ヲ証明ス（第一条）

(二)主力艦ノ制限ニ関シ

(1)締約国ノ主力艦ハ本条約ニ列記シタルモノニ限り之ヲ保有スルコトヲ得シム（第二条第一項、第二章第一節）其ノ各
国別総数左ノ如シ

| | | |
|----|------|----------|
| 帝国 | 十隻 | 三〇一、三二〇噸 |
| 英国 | 二十二隻 | 五八〇、四五〇噸 |
| 米国 | 十八隻 | 五〇〇、六五〇噸 |
| 仏国 | 十隻 | 二二一、一七〇噸 |
| 伊国 | 十隻 | 一八二、八〇〇噸 |

右ノ中英、伊国等ヲシテ後記ノ比率ヲ越ユル主力艦ヲ保有セシムルハ当局ノ説明ニ依レハ該国ノ現在主力艦ニ老艦多キヲ以テナリト云フ

締約国ハ右ニ挙ケタルモノヲ除クノ外既成タルト建造タルト別タス一切ノ主力艦ヲ本条約所定ノ手續ニ依リ処分スヘキモノトス（第二条第一項、第二章第二節）尤モ英国ハ新艦二隻ヲ建造シテ旧艦四隻ニ代ヘ米国ハ現ニ建造中ノ二隻ヲ完成シテ旧艦二隻ニ代フルコトヲ得ルモノトス（第二条第二項及第三項）是レ帝国ノ陸奥保留ニ対スル権衡ノ為英、米二国ニ許セラレタル特典ナリ

(2)締約国ハ其ノ主力艦建造計画ヲ廃止スヘク又代換ニ関シ本条約ニ定メタル所ニ依ルノ外新主力艦ヲ建造又ハ取得スルコトヲ得ス代換セラレタル旧艦ハ本条約所定ノ手續ニ依リ之ヲ処分スヘキモノトス（第三条、第二章第三節）代換ニ関スル規定ニ於テ原則トシテ千九百二十一年十一月十二日ヨリ十年間主力艦ノ建造ヲ起工スルコトヲ禁シ爾後艦齡二十年ニ達シタルモノヲ順次代換スルコトヲ許シタルモ英、米二国ニ対シテハ前記ノ特典ヲ与ヘ仏、伊二国ニ対シテモ亦早ク建造ニ着手スルコトヲ得ルノ特例ヲ認メタリ

(3)締約国ノ主力艦ノ代換完了シタル時即チ千九百四十二年ヨリ以後ニ於テハ其ノ噸数ハ帝国ハ三十一万五千噸、英国及米国ハ各五十二万五千噸、仏国及伊国ハ各十七万五千噸ヲ以テ限度ト為ス（第四条）之ヲ表示スルニ比率ヲ以テスレハ即チ六（日）、十（英米）、三、三（仏伊）ト為ル而シテ前記ノ時期ニ至ル迄ハ締約国主力艦ノ合計噸数ノ比率ハ大体六、十、三、三ニ近接セルモ全ク之ニ符合セルモノニ非サルナリ

(4)主力艦ノ単艦噸数ハ三万五千噸ヲ限度トシ締約国ハ之ヲ越ユルモノヲ建造若ハ取得シ又ハ其ノ法域内ニ於テ之カ建造ヲ許スコトヲ得サルモノトス（第五条）

(5)主力艦搭載砲ハ口径十六吋ヲ限度トシ締約国ハ之ヲ越ユルモノヲ裝備スルコトヲ得サルモノトス（第六条）

(6)航空母艦ノ制限ニ関シ

(1)締約国ノ航空母艦合計噸数ハ帝国ハ八万一千噸、英国及米国ハ各十三万五千噸、仏国及伊国ハ各六万噸ヲ以テ限度ト為ス（第七条）此ノ比率ハ六（日）、十（英米）、四、四（仏伊）ト為ル

(2)締約国ノ航空母艦ハ本条約ニ定メタル所ニ依ルノ外之ヲ代換スルコトヲ得ス該艦ハ原則トシテ艦齡二十年ニ達シタル後ニ非サレハ之ヲ代換スルコトヲ得サルモ現存又ハ建造中ノ航空母艦ハ之ヲ試験的ノモノト看做シ艦齡ノ如何ニ拘ラズ前記ノ合計噸数ノ範圍内ニ於テ之ヲ代換スルコトヲ得ルモノトス（第八条第二章第三節）

(3)締約国航空母艦ノ単艦噸数ハ二万七千噸ヲ以テ限度ト為ス但シ締約国ハ前記ノ合計噸数ヲ越エサル限り各三万三千噸迄ノ航空母艦二隻以内ヲ建造シ又ハ本条約ノ規定ニ依リ廃棄スヘキ主力艦中ノ二隻ヲ之ニ改造スルコトヲ得ルモノト

ス(第九條)

(二) 締約国航空母艦ノ搭載砲ハ口径八吋ヲ限度トシ且各艦備砲ノ門數ヲ制限ス(第九條、第十條)
四) 補助艦ノ制限ニ関シ

(イ) 締約国補助艦ノ單艦噸數ハ一萬噸ヲ以テ限度ト為ス但シ特ニ戰鬪用トシテ建造セラレタルニ非サル船舶又ハ戰鬪用トシテ平時政府ノ管理ノ下ニ置カレタルニ非サル船舶ニシテ戰鬪ニ参加スルコトナクシテ敵対行為ノ遂行ヲ幫助スル為使用セラルルモノハ此ノ限ニ在ラス(第十一條)

(ロ) 将来起工セラルヘキ締約国補助艦ノ搭載砲ハ口径八吋ヲ以テ限度ト為ス(第十二條)
補助艦ニ付テハ各国合計噸數ヲ制限スルコトナシ

(五) 其ノ他ノ制限ニ関シ

(イ) 本條約ニ於テ廢棄スヘキモノトセラレタル締約国ノ主力艦ハ本條約ノ規定ニ依リ航空母艦ニ改造スルモノヲ除クノ外再ヒ之ヲ軍艦ニ変更スルコトヲ禁ス(第十三條)

(ロ) 締約国ノ商船ハ口径六吋以下ノ砲ヲ裝備スルニ必要ナル甲板ノ補強設備ヲ除クノ外他日軍艦ニ変更スルノ目的ヲ以テ平時之ニ武装ヲ施スノ準備ヲ為スコトヲ禁ス(第十四條)

(ハ) 締約国ノ法域内ニ於テ非締約国ノ為ニ建造スル軍艦ハ締約国ノ同型ノ軍艦ニ付本條約ニ規定スル排水量及武装ニ関スル制限ヲ超ユルコトヲ得ス而シテ航空母艦ノ排水量ハ常ニ二萬七千噸ヲ超ユルコトヲ得サルモノトス(第十五條)

(ニ) 締約国ハ戰爭ニ從事スル場合ニ在リテハ其ノ法域内ニ於テ他国ノ為ニ建造中ノ軍艦又ハ建造シタルモ未タ引渡ヲ了セサル軍艦ヲ軍艦トシテ使用スルコトヲ得サルモノトス(第十七條)

(ホ) 締約国ハ讓渡ノ如何ナル形式ヲ以テスルモ外国海軍ニ於テ軍艦ト為シ得ヘキ方法ニ依リ其ノ軍艦ヲ処分スルコトヲ得サルモノトシ(第十八條) 此ノ禁止ノ趣旨ハ本條約實施前ニ於テモ各国任意ニ之ヲ遵守スヘキコトヲ約束シテ其ノ旨

ヲ本會議事録ニ記載シタリト言フ

(六) 日、英、米、三国ハ左ニ掲クル太平洋上ノ島嶼タル領土及屬地ノ要塞及海軍根拠地ニ関シ本條約署名ノ時ニ於ケル現状ヲ維持スヘキモノトス

(イ) 帝國ニ在リテハ千島諸島、小笠原諸島、奄美大島、琉球諸島、台湾及澎湖諸島並帝國カ将来取得スルコトアルヘキ太平洋ニ於ケル島嶼タル領土及屬地

(ロ) 英國ニ在リテハ香港及英國カ東徑百十度以東ノ太平洋ニ於テ現ニ領有シ又ハ将来取得スルコトアルヘキ島嶼タル屬地但シ加奈陀海岸ニ近接スル島嶼、濠州連邦及其ノ領土並新西蘭ヲ除ク

(ハ) 米國ニ在リテハ同國カ太平洋ニ於テ現ニ領有シ又ハ将来取得スルコトアルヘキ島嶼タル屬地但シ米本國、「アラスカ」及巴奈馬運河地帯ノ海岸ニ近接スル島嶼(「アリニューシアン」諸島ヲ包含セス) 並布哇諸島ヲ除ク

茲ニ防備ノ現状維持ト言フハ新ナル要塞又ハ海軍根拠地ヲ建設セサルコト並海軍力ノ修理維持ノ為現存スル海軍諸設備及沿岸防禦ヲ増大セサルコトノ謂ニシテ海陸軍ノ設備ニ於テ平時慣行スルカ如キ磨損セル武器裝備ノ修理取替ヲ為スコトヲ妨ケサルモノトス(第十九條)

(七) 主力艦及航空母艦ノ廢棄及代換ノ方法及時期ニ関スル細則ヲ設ケ(第二章第二節及第三節) 本條約ノ適用ニ関シ主力艦、航空母艦及基準排水量ノ定義ヲ掲ク(同章第四節)

(八) 締約国ノ一國ニ於テ本條約ノ有効期間中四圍ノ状況ノ變化ニ因リ其ノ海軍力ニ関スル国防上ノ要求ニ重大ナル變化ヲ來シタリト認メタルトキハ締約諸國ハ該國ノ請求ニ基キ本條約ノ規定ヲ再議シ其ノ修正ヲ協定スル為會議ヲ開催スヘク又米國ハ他ノ條約國ト協議ノ上技術上及科学上ノ将来ノ發達ニ適応スル為本條約ノ規定ニ如何ナル變化ヲ必要トスヘキカヲ審議スルノ目的ヲ以テ本條約實施ノ八年以後成ルヘク速ニ締約国全部ノ會議ヲ招請スヘキモノトス(第二十一條)

(九) 締約国ノ一國カ戰爭ニ從事シ其ノ結果海軍力ヲ以テスル国防ノ安全ニ支障ヲ來スト認ムルニ至リタルトキハ該國ハ他ノ

締約国ニ通告シタル後右敵対行為ノ繼續中本条約所定ノ自国ノ義務ヲ停止スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ爾余ノ締約国ハ其ノ相互間ニ於テ本条約ノ規定ニ如何ナル一時的修正ヲ加フヘキカニ関シ商議ヲ為スヘク其ノ商議ノ結果協定ノ成立ヲ見ルニ至ラサルトキハ各国ハ他国ニ通告シタル後該敵対行為ノ繼續中本条約所定ノ自国ノ義務ヲ停止スルコトヲ得ルモノトス斯クノ如ク各締約国カ本条約ノ義務ヲ停止スルコトヲ得ル場合ニ於テモ廢棄スヘキ軍艦ヲ再ヒ軍艦ニ變更スルコトノ禁止及他国ノ為ニ建造中又ハ他国ニ引渡前ノ軍艦トシテ使用スルコトノ禁止ハ其ノ適用ヲ免ルヘカラサルモノトス而シテ右敵対行為終了ノ上ハ締約国ハ本条約ノ規定ニ加フヘキ修正ヲ審議スル為會議ヲ開催スヘキモノトス(第二十二條)

(十) 本条約ハ千九百三十六年十二月三十一日迄効力ヲ有シ締約国中右期日ノ二年前ニ本条約ヲ廢止スルノ意思ヲ通告シタルモノナキトキハ締約国ノ一國カ廢止ノ通告ヲ為シタル日ヨリ二年ヲ経過シタル後締約国全部ニ対シ終了ス右廢止ノ通告アリタルトキハ一年内ニ締約国全部ノ會議ヲ開催スヘキモノトス(第二十三條)

(十一) 本条約ハ批准ヲ要シ批准書ノ寄託ハ成ルヘク速ニ華盛頓ニ於テ之ヲ行ヒ其ノ全部ノ寄託ノ日ヨリ本条約ヲ實施スヘキモノトス(第二十四條)

本条約ノ成立ノ経過及其ノ条項ノ解説ニ付テハ別冊外務省ノ作成ニ係ル「海軍軍備制限ニ関スル条約説明書」ヲ參考ニ供セラレムコトヲ請フ

本条約ノ条項中往々意義明確ナラサルモノアリ仍テ審査委員會ニ於テハ項目ヲ立テテ当局ノ弁明ヲ求メタルカ今其ノ主要ナルモノヲ摘録スレハ左ノ如シ

(一) 本条約ハ締約国ノ主力艦及航空母艦ノ建造ヲ制限セルカ故ニ該制限ヲ超エテ其ノ起工ヲ為スコトヲ得サルハ明白ナルカ其ノ起工前ノ準備行為ヲ為スコトモ亦本条約ノ干渉スル所ナルカ又民間造船業者ニ於テ注文ニ依ラス主力艦又ハ航空母艦ヲ建造スルコトハ果シテ本条約ノ禁止スル所ナルカラ質シタルニ当局ハ此ノ点ニ付テハ本条約ニ明文ヲ存セサルモ之

ヲ禁止スルコト其ノ精神ナリト答弁セリ

(二) 本条約第十三條、第十四條及第十六條乃至第十八條ニ軍艦ニ関スル制限ノ規定アリ單ニ軍艦ト言ハハ補助艦ヲ含ムヘク補助艦ニ付特殊ノ制限ヲ立ツルハ本条約ニ於テ補助艦ニ関スル制限ヲ設ケサルノ大体ノ趣旨ニ扞格スルノ嫌アリ当局ノ弁明ニ依レハ右諸條ノ規定ハ單ニ軍艦ト言フカ故ニ当然補助艦ニモ適用アルモノト解スルノ外ナク其ノ結果彼此權衡ヲ得サル場合ヲ生スヘク是レ恐ラクハ本件商議ノ始メ補助艦ニ付テモ一般ノ制限ヲ定ムヘシトノ説アリシ際起草セラレタル案文カ後日議事ノ進行ニ伴ヒテ整理セラレサリシニ因ルモノアルナラムト言フ

(三) 本条約第二章第三節代換ニ関スル条項中ニ締約国ノ主力艦又ハ航空母艦ノ亡失破壊ノ場合ニ於テハ正規ノ代換計画ヲ繰上ケ新艦建造ニ依リ直ニ之ヲ補充スルコトヲ得ル旨ノ規定アリ然ルニ新艦建造ノ竣工ニハ数年ノ時日ヲ閱スルカ故ニ時ニ他ノ方法ニ依リ急速ニ毀滅艦ヲ補充スルヲ要スルコトアルヘキモ是レ果シテ本条約ノ認容スル所ナルカ之ヲ当局ニ質シタルニ当局ハ他ノ方法ニ由リテ補充スルモ前記本条約所定ノ実勢力ヲ増加セサル限り敢テ本条約ノ精神ニ背馳スルモノニ非スト解スヘシト答弁セリ

(四) 本条約第十三條ノ締約国ノ廢棄スヘキ軍艦ハ再ヒ之ヲ軍艦ニ變更スルコトヲ得サル旨ノ規定ハ該國カ戰爭ニ從事スル場合ニ於テモ仍其ノ適用アリ然ラハ戰時他國ヨリ軍艦ヲ購買スルコトハ本条約ノ容認スル所ナルカ当局ノ答弁ニ依レハ是レ必スシモ本条約ノ禁止スル所ニ非サルモ其ノ事多クハ中立ノ侵犯ト為ルヘシト言フ惟フニ一方ニ於テ戰時ト雖自國ノ老艦ヲ保留シテ軍艦ニ使用スルコトヲ禁止スルニ拘ラス他方ニ於テ中立侵犯ト為ラサル限り他國ヨリ軍艦ヲ購買スル事ヲ妨ケスト為スハ其ノ間支吾ノ嫌アルヲ免レサルヘキナリ

(五) 本条約第十七條ノ規定ニ於テ締約國カ戰時ト雖他國ノ為ニ建造中又ハ他國ニ引渡前ノ軍艦ヲ自國ニ引取リテ使用スルコトヲ禁止スルハ当局ノ説明ニ依レハ縱ヒ該國ノ承諾アルモ尚之ヲ許容セサルノ旨意ナリト言フ果シテ然ラハ前段所述ノ如ク戰時他國ヨリ軍艦ヲ購買スルコトヲ妨ケスト言フト調和セサル所アルニ似タリ

按スルニ本条約ノ主眼ハ日、英、米、仏、伊ノ五国間ニ其ノ主力艦及航空母艦ノ勢力ノ現制限ヲ協定シタルト日、英、米ノ三國ノ太平洋諸島ノ防備ノ現状維持ヲ約諾シタルトニ在リ此クノ如ク現実ニ各国海軍軍備ヲ制限スルコトヲ國際間ニ約束スルノ議ハ久シキニ亘レル世界ノ宿論ニシテ今回始メテ其ノ成立ヲ見タリ此ノ事タルヤ世界ノ全局ヨリ看テ實ニ特書スヘキ一事件ナルノミナラス又帝國國運ノ消長ニ関スル所甚タ大ニシテ慎重ノ考慮ヲ払フヘキコト言フ俟タサルカ故ニ本官等ハ深思熟慮具ニ其ノ利害得失ヲ研覈究明スルニ務メタリ

抑々本件商議ノ際帝國全権委員ハ主力艦比率ノ問題ニ最モ重キヲ置キ帝國ニ在リテハ外國ノ攻撃ニ對シ防禦ヲ全ウスルノ見地ニ於テ英米二國ノ十二比シテ少クトモ七ヲ保有セサルヘカラサルコトヲ念ヒ米國提案ノ現在勢力ヲ以テ基準ト為スノ主義ニ依ルモ計算ノ結果此ノ比數ニ達スヘシト為シ之ヲ以テ頻ニ折衝スル所アリシモ日、米兩國間ニ意見ノ相違アリ終ニ協議調フニ至ラス我カ全権委員ハ已ムナク此ノ点ノ論議ヲ留保シテ米國ノ主張ニ係ル日、英、米各六、十、十ノ比率ニ同意シタリト言フ惟フニ國家ハ本來其ノ獨立平等ノ權能ニ基キ自由ニ其ノ軍備ヲ編成スルコトヲ得ヘキモノニシテ國際間ニ不平等ノ軍備制限ヲ協定シ自國ノ勢力ヲシテ他國ニ比シ劣弱ナラシムルコトヲ約諾スルカ如キハ實ニ自ラ重大ナル拘束ヲ受ケ其ノ地位ヲ低下スルモノト言フヘキノミナラス國家ノ存立ヲ確保スルニ必要ナル軍備ハ必スシモ防備ノ為ニスルニ止マラス時ニ進テ攻撃ヲ取ルノ已ムヲ得サルコトナシトセサルヲ推想シテ其ノ勢力ヲ決定スヘキコト当然ナリ此ノ見地ニ於テハ前記帝國全権委員ノ主張ハ未タ以テ十分ト為スヘカラサルニ似タリ然レトモ帝國カ此ノ見解ヲ固持スルニ於テハ到底本条約ノ成立ヲ見ルヘカラサルコト明瞭ナルニ由リ忍テ交讓妥協ノ態度ニ出テ米國提案ノ如ク各国ノ現ニ行ヒツツアル製艦競争ヲ即時無条件ニテ廢絶セシムルノ趣旨ニ依リ主義トシテ各国ノ現在勢力ヲ以テ其ノ軍備制限ノ基準ト為スコトヲ認ムルノ外ナカルヘキナリ但各國現在勢力ノ比率ニ関シ日、米兩國其ノ所見ヲ異ニシ終ニ我方ノ主張ヲ貫徹スルコト能ハサリシハ素ヨリ遺憾トスヘキ所ナルモ全般ノ情勢ト大局ノ利害トヲ顧念シ且本条約ノ精神カ誠實ニ履行セラルルニ於テハ賴リテ以テ一般ノ平和ノ維持ニ貢獻シ軍備競争ニ基因スル國民ノ負担ヲ輕減スルヲ得ヘキコトヲ期待シ特ニ英米兩國ヲシテ

其ノ太平洋諸島ニ於ケル防備ノ現状維持ヲ約諾セシメ布哇諸島ニ付テハ米國ノ情勢上之ヲ約諾セシムルコトヲ得サリシハ遺憾ナルモ北ハ「アリューシヤン」諸島南ハ「グアム」、比律賓及香港、「ボルネオ」、「フィジー」等ノ防備擴大ヲ禁止シタル以上列國海軍力ノ制限ト相俟チテ帝國國防ノ安全ニ支障ナカルヘキコトヲ前提トシ帝國モ亦列國ト相並テ本条約ヲ承認スルノ最終ノ決定ヲ与ヘラルルコト蓋シ機宜ノ措置ナリト史料ス本条約ノ條項ニ関シテハ前ニ記述シタル所ノ如ク間々意義明瞭ナラサルモノアルモ之ヲ以テ直ニ本条約ヲ承認スヘカラスト為スハ固ヨリ失当ニシテ該諸点ハ之ヲ付記シテ當局今後ノ考慮ヲ促スヘキノミ仍テ審査委員會ニ於テハ本案ノ條約御批准ノ件ハ之ヲ可決セラレ可然キ旨全会一致ヲ以テ議決シタリ

右審査ノ結果ヲ報告ス

大正十一年六月二十三日

審査委員長

枢密顧問官子爵 伊 東 巳代治

審査委員

| | |
|---------|---------|
| 枢密顧問官子爵 | 金 子 堅太郎 |
| 枢密顧問官男爵 | 穂 積 陳 重 |
| 枢密顧問官 | 安 広 伴一郎 |
| 枢密顧問官 | 一 木 喜徳郎 |
| 枢密顧問官 | 富 井 政 章 |
| 枢密顧問官 | 平 山 成 信 |
| 枢密顧問官 | 有 松 英 義 |

枢密院議長子爵

清浦奎吾殿

枢密顧問官

倉

富

勇三郎

一一 潜水艦及毒瓦斯ニ関スル五国条約批准ノ件審査報告